

株式会社生命科学インスティテュート 社長 木曾誠一 2021 年年頭挨拶（要約）

新年明けましておめでとうございます。

昨年は新型コロナウイルスの感染拡大という予測もしなかった事態が起きました。3月に東京オリンピックの延期が決定し、4月には政府から緊急事態宣言が発せられ、これまで経験したことのない日常が訪れました。

我々も従業員の皆さんの安全を最優先に、テレワークの導入を行うとともにマスクの着用や手洗い・消毒の励行、三密を避けるなど感染対策をしながら業務を行うこととなりました。当初は戸惑う中で「ウィズコロナ」の新たな日常がスタートしましたが、今ではWeb会議がスタンダードとなり、仕事のやり方・進め方を見直す機会ともなっています。

そのような中、昨年もまた皆さんの努力により新たな成果が着実に積み上げられました。

Muse 細胞製剤 CL2020 については、治験が順調に進み、急性心筋梗塞および表皮水疱症の最初の臨床試験が終了しました。両試験とも安全性に問題はなく、有効性についても目標を達成することが出来ました。また、脳梗塞の二重盲検試験では12週間における中間解析の結果、これも安全性に問題はなく、有効性についても目標を達成しており、52週後の成績に大きな期待を寄せているところです。一方、健康・医療 ICT の分野では、認知機能検査プログラムにおいて、探索レベルでの有効性が確認でき、医療施設での特定臨床研究を開始することができました。そして、エーピーアイコーポレーション（APIC）では、予算達成に向けて着実に売り上げを伸ばすとともに、独自に開発した酵素法を用いた非天然型アミノ酸の合成法の確立、新しい合成技術であるフロー合成技術の確立などの成果を上げてきました。

慣れない、また、難しい環境の中、皆さんの弛まない努力のおかげと深く感謝いたします。

さて、今年の干支である「丑年」は、一步一步着実に物事を進めることが大切な年と言われており、また、耐える年となるとも言われています。

LSII にとって、2021 年はインキュベーションプロジェクトの推進を図り、事業化に繋げる重要な年であります。また、APIC においては、飛躍に向けてのステップになる年と考えています。特に、CL2020 に関しては、事業化への非常に重要な一歩となる申請という大きなマイルストーンがあります。また、健康・医療 ICT や APIC においてもそれぞれ未来に向けてのマイルストーンがあります。これらを乗り越え、未来の礎にするための毎日があり、それぞれの業務があります。これまで同様一步一步着実に進んでいきたいと思っております。

今年にはMCHCグループの新中計のスタートの年でもあります。これからの5年、再生医療を始めとする新たな医療の事業化や既存事業の拡大を進め、それら事業を通して患者さんに希望を届けるヘルスケア企業となるべく皆さんとともに頑張っていきたいと思っております。

最後になりますが、我々のビジネスにとってコンプライアンスは非常に重要です。いつも申し上げていることですが、まずコンプライアンスや倫理という基盤があって、その上にサイエンスがあり、それらがあって初めてビジネスが成り立ちます。コンプライアンスがしっかりしていなければサイエンスもビジネスも成り立ちません。今一度、コンプライアンスの重要性を確認してください。また、そのコンプライアンスの浸透にはコミュニケーションが重要です。テレワークの中でも様々なコミュニケーションツールがあります。それらを上手く使うことによりコミュニケーションを深め、風通しの良い職場づくりを一緒に進めていきましょう。

「雲外蒼天」。今は苦しくても患者さんに希望を届けるという思いを持ち、正しい道を歩めば、これからある困難もきっと乗り越えて行けます。今のコロナ禍が明けた「アフターコロナ」の時代には、患者さんとそのご家族に、そして我々にも、青い空が待っていると信じています。

今年もよろしくお願ひいたします。

以上

[本件に関するお問い合わせ先]

株式会社生命科学インスティテュート 経営企画部 広報担当： TEL 050-3188-2753

株式会社三菱ケミカルホールディングス 広報・IR室： TEL 03-6748-7140